



エンド・ツー・エンドの イノベーションを通じ 持続的な成長へ

2023年12月6日（日本時間）

2023年12月5日（米国東部時間）



Better Health, Brighter Future

重要な注意事項



本注意事項において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションに関して武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類並びに一切の口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法の登録又は登録免除の要件に基づいて行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあり得ます。同様に、「当社（we、us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

本プレゼンテーションに記載されている製品名は、武田薬品又は各所有者の商標又は登録商標です。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む武田薬品の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす（aims）」、「意図する（intends）」、「確実にする（ensures）」、「だろう（will）」、「かもしれない（may）」、「すべきであろう（should）」、「であろう（would）」、「かもしれない（could）」、「予想される（anticipates）」、「見込む（estimates）」、「予想する（projects）」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の結果は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の結果とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む武田薬品のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品及び既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機が、武田薬品が事業を行う国の政府を含む武田薬品とその顧客及び供給業者又は武田薬品の事業の他の側面に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬品の事業にとっての非中核資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社による省エネルギーへの取り組み及び将来の再生可能エネルギー又は低炭素エネルギー技術の発展による当社の温室効果ガス排出量の削減の程度、武田薬品のウェブサイト（<https://www.takeda.com/investors/sec-filings-and-security-reports/>）又はwww.sec.govにおいて閲覧可能な米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書並びに武田薬品の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は武田薬品が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果及び情報は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

財務情報及び国際会計基準に準拠しない財務指標

武田薬品の財務諸表は、国際会計基準（以下、「IFRS」）に基づいて作成されております。

本プレゼンテーションには、Core売上収益、Core営業利益、Core当期利益、Core EPS、CER（Constant Exchange Rate：恒常為替レート）ベースの増減、純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標が含まれています。当社経営陣は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本プレゼンテーションに含まれるIFRSに準拠しない財務指標に基づいて行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、最も良く対応するIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュ・フロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社経営陣は、投資家の皆様に対し、武田薬品の経営状況及びCore業績の更なる分析のための為替変動の影響を含む付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません（IFRSに準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります）。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションの巻末に掲載した財務補足情報にて、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

為替

本プレゼンテーションでは、特に断りのない限り、利用者の便宜のために、日本円で表示された一部の金額をニューヨーク連邦準備銀行が2023年3月31日および2023年9月29日に認定した各日の正午時点の買値レートである1米ドル=132.75円または1米ドル=149.43円を、それぞれ2022年度実績と2023年度上半期実績の米ドルへの換算に使用しています。これらの便宜的な換算に使用された買値レート及び換算方法は、当社の連結財務諸表に使用されるIFRSの換算レート及び換算方法とは異なります。これらの便宜的な換算は、関連する日本円の金額が当該買値レート又は他のレートで米ドルに換算されうること示すものではありません。

医療情報

- 2 本プレゼンテーションには、製品に関する情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

チーム紹介



ジャイルズ・
プラットフォーム

プラズマ ディライブド
セラピーズ
ビジネス ユニット
(PDTビジネスユニット)
プレジデント



ラミー・リアド

PDTビジネスユニット
チーフ フィナンシャル
オフィサー



クリステナ・
アリクメッツ

PDTビジネスユニット
R&D ヘッド



ヘマ・トールマン

PDTビジネスユニット
グローバル BioLife
ヘッド



アッバス・ヤールカン

グローバル マニュファク
チャリング&サプライ
プラズマ オペレーティング
ユニット ヘッド

▶ 私たちが成し遂げたこと - そしてその方法

▶ 未来への展望 - そしてその理由

▶ 主なポイント

- すべての主要な指標において業界をリードする実績を継続して示していること
- 勢いをさらに加速させ、さらなる価値を創造するための確固たる計画を有すること
- 株主、患者さん、ともに働く仲間、そしていのちを育む地球のために貢献していること



適切な戦略・チーム・能力を備え、 業界をリードする実績を通じ患者さんに貢献



- ✓ 血漿収集ネットワークの
拡大が**加速**

+88%

2018年ベースライン比で
血漿収集センター数を増加

- ✓ 製造能力の拡大目標を
12カ月前倒しで達成

65%以上

2018年ベースライン比で
製造能力を拡大

- ✓ **市場を上回る**売上収益成長

+9%

PDT事業収益
各年の対前年成長率の平均値¹
(2020年度 - 2022年度の3カ年)

- ✓ パンデミック終息後に血漿収集量を
いち早く回復

- ✓ 血漿成分献血者の新たな行動様式に
いち早く対応

- ✓ 免疫グロブリンの収率改善に**注力**、
2019年度から2022年度にかけて
+8%改善

- ✓ パンデミック終息後に**利益率を改善**

- ✓ グローバルでの血漿分画製剤
売上収益 **第2位**

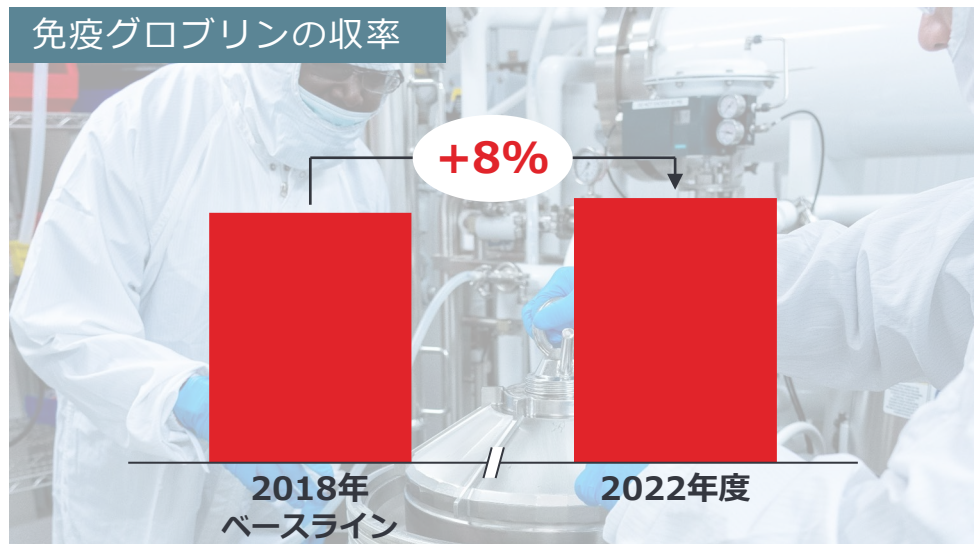
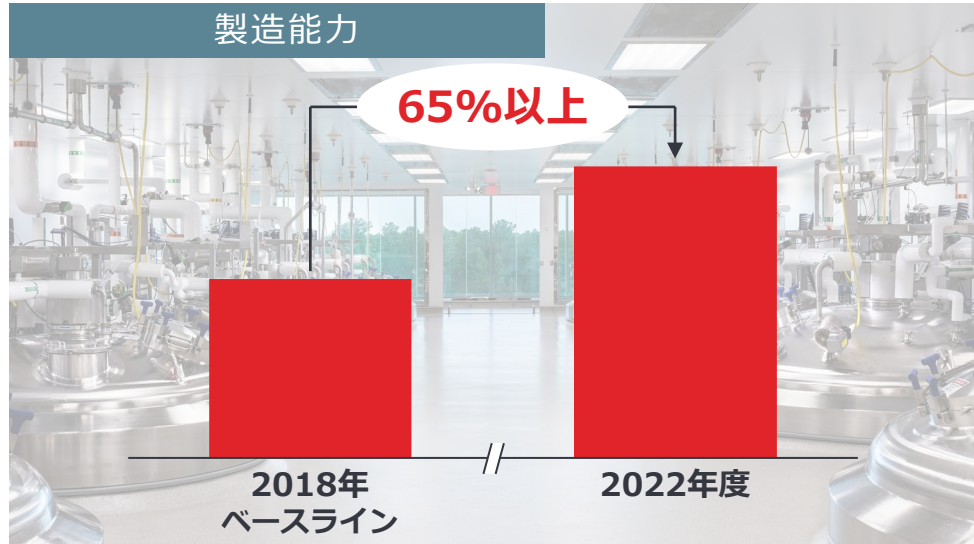
- ✓ 米国における免疫グロブリン製剤
売上収益 **第1位**²

注：社内分析による主な血漿分画製剤関連企業との比較

¹ 2020年度（対2019年度）および2021年度（対2020年度）の売上収益の対前年比は、実質的な成長率。2022年度（対2021年度）の売上収益の対前年比はCERベースの成長率。2021年度を最終年とし、実質ベースの指標を止めました。実質的な成長とCERベースの成長はいずれも前年度との比較において為替影響を控除するための調整を行う指標ですが、CERベースでは前年度の同期間に適用した為替レートをを用いて換算する一方、実質的な成長では当社が選択した単一の計画為替レートをを用いて換算しています。実質的な売上収益成長の定義では、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整することとしていますが、本プレゼンテーションにおける報告期間においては血漿分画製剤事業の売上収益成長からこれらの調整に該当する事象はありませんでした。上記の通りこれら二つの指標は等しくなく且つ直接的に対応しておらず、2020年度（対2019年度）および2021年度（対2020年度）の売上収益成長率をCERベースで算出した数値は、実質的な売上収益の成長率とは異なる数値となります。2020年度（対2019年度）、2021年度（対2020年度）および2022年度（対2021年度）の血漿分画製剤事業の財務ベース売上収益成長率は、それぞれ2.6%、15.4%および29.8%であり、これら成長率の平均値は15.9%でした。CERの定義は以下のリンクをご参照ください：https://assets-dam.takeda.com/image/upload/v1699393405/Global/Investor/Financial-Results/FY2023/Q2/qr2023_q2_p01_jp.pdf。

² Market Research Bureau (MRB) 2022

製造インフラの新設およびアップグレードに対し、ターゲットを絞った投資を行った結果、製造能力の拡大目標を1年前倒しで達成



ネットワーク全体で血漿成分の分離能力を強化：

- 2018年以降、コビントン工場の稼働率が向上
- ウィーンおよびリエティの工場で製造設備の拡大と稼働率の向上
- 全ての製造拠点において、プロセスおよびサイクルタイムを改善中

コビントン工場における免疫グロブリンの精製ラインをアップグレード

レシーヌ工場では製剤の製造能力を拡大

免疫グロブリン製剤の製造工程におけるプロセス効率の継続的な改善

戦略的な投資やBioLifeネットワーク全体でテクノロジーを駆使し、 変革を行ったことにより目標を達成



ネットワーク の拡大

- 2018年以来、**100以上の血漿収集センターを新規開設**
- **米国で新たに11の州**で開設
- 各センターで対応可能な血漿成分献血者数が増加
ーネットワークの81%が人口密度の高い地域
- **血漿成分献血者の多様な層に対応**
BioLife En Espanol (BLEE)

ネットワーク の効率化

- 業界トップレベルの**高い効率を誇る原料血漿収集機器 Aurora XI**を30%の血漿収集センターで導入
- 新たな血漿収集センターの迅速な立ち上げ
- 血漿成分からの**免疫グロブリンの収率が改善**
- エンド・ツー・エンドのプロセス改善、血漿成分献血者への報酬の層別化またデジタルを駆使した変革により、**コストを削減**



血漿成分献血者および 従業員の体験

血漿収集センターにおける体験向上およびエンゲージメントに注力したことにより、
パンデミック期間中の現象が好転

- 従業員向けプログラムにより、離職率はパンデミック以前の水準に低下
- 血漿成分献血者を対象としたロイヤリティプログラムを導入により、再訪率が増加



供給

持続的な免疫グロブリン製剤の
供給量増加および
市場シェア拡大に必要な
血漿収集量を確保



コスト

パンデミック期間中に上昇した
コストを抑制、1リットル
当たりのコスト削減を開始



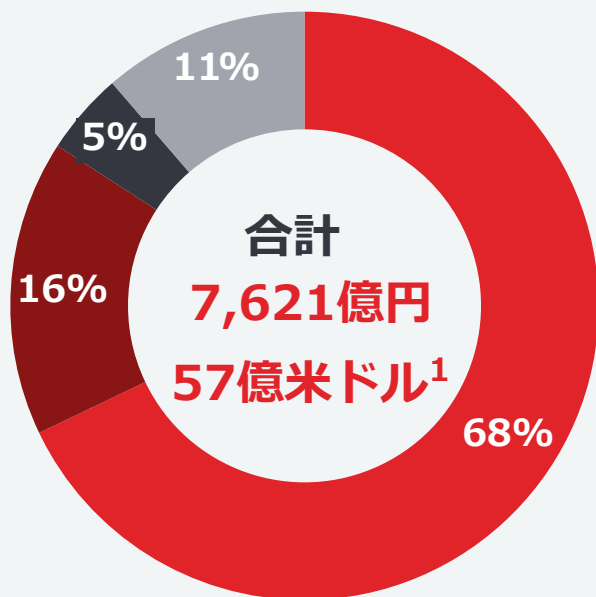
成長

短期的な成長のため
ネットワークを拡大し、
戦略的なエコシステムを構築

差別化された幅広い製品ポートフォリオにより、 卓越した売上収益の成長を実現



PDTビジネスユニット 2022年度財務ベース売上収益



合計

7,621億円

57億米ドル¹

- IG製剤ポートフォリオ
- アルブミン製剤ポートフォリオ
- その他の免疫関連製品²
- その他のPDT製品³

売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）（財務ベース）

¹ 為替レートに関する免責事項は2ページをご参照下さい。

² その他の免疫関連製品には、Aralast、Glassia、Ceprotin、Antithrombin III、献血ノンスロンおよびその他の生物学的製剤などが含まれます。

³ その他のPDT製品には、ファイバ、Cinryze、Hemofil/Immunate/Immunine、Prothromplex、第VII因子、BebulinおよびPPSBなどが含まれます。

⁴ 2020年度（対2019年度）および2021年度（対2020年度）の売上収益の対前年比は、実質的な成長率。2022年度（対2021年度）の売上収益の対前年比はCERベースの成長率。2021年度を最終年とし、実質ベースの指標を止めました。実質的な成長とCERベースの成長はいずれも前年度との比較において為替影響を控除するための調整を行う指標ですが、CERベースでは前年度の同期間に適用した為替レートをを用いて換算する一方、実質的な成長では当社が選択した単一の計画為替レートをを用いて換算しています。実質的な売上収益成長の定義では、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整することとしています。本プレゼンテーションにおける報告期間においては血漿分画製剤事業の売上収益成長からこれらの調整に該当する事象はありませんでした。上記の通りこれら二つの指標は等しくなく且つ直接的に対応しておらず、2020年度（対2019年度）および2021年度（対2020年度）の売上収益成長率をCERベースで算出した数値は、実質的な売上収益の成長率とは異なる数値となります。2020年度（対2019年度）、2021年度（対2020年度）および2022年度（対2021年度）の血漿分画製剤事業の財務ベース売上収益成長率は、それぞれ2.6%、15.4%および29.8%であり、これら成長率の平均値は15.9%でした。CERの定義は以下のリンクをご参照ください：https://assets-dam.takeda.com/image/upload/v1699393405/Global/Investor/Financial-Results/FY2023/Q2/qr2023_q2_p01_jp.pdf。
実質的な売上収益の定義は以下のリンクをご参照ください：https://assets-dam.takeda.com/raw/upload/v1662727335/legacy-dotcom/siteassets/jp/home/investors/report/quarterly-announcements/fy2021/qr2021_q4_p01_jp.pdf。

8 PDT：プラズマ デライブド セラピーズ（血漿分画製剤）、IG：免疫グロブリン製剤

地理的拡大および適応拡大により 売上収益成長が加速

各年の対前年成長率の平均値⁴

2020年度－2022年度の3カ年

製品群

PDT合計

+9%

IG製剤ポートフォリオ

+14%

Cuvitru

HyQvia

+17%

GAMMAGARD LIQUID

Kiovig
Human Normal Immunglobulin (IVIg)

+13%

アルブミン製剤ポートフォリオ

+16%

その他の免疫関連製品

+1%

その他のPDT製品

△9%

患者さん重視のアプローチと研究開発の力強い勢いにより、 当社のポートフォリオは持続的に成長



2019年度以降
大幅な進展

13の血漿分画製剤が、**72**の国や地域において
160件以上の承認を取得

70%

承認された製品に占める
ファースト・リットル製品の割合

30件

審査中の規制当局への申請

2023年度の
ハイライト

- HyQviaが小児の原発性免疫不全症候群（PID）を対象に米国で承認
- HyQviaおよびGammagard Liquidは慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）を対象に米国および欧州で申請
- TAK-881はPIDを対象とした臨床第3相試験を開始
- CuvitruがPIDおよび続発性免疫不全症候群（SID）を対象に日本で承認

データ、デジタル、テクノロジーがバリューチェーン全体のイノベーションを推進し、卓越性、機敏性および効率性を向上



採漿体験の向上は 血漿収集量の増加につながる

- 個別化されたプロモーションは層別化され、より多くの血漿成分献血者を引きつけ、再訪を促すことに貢献
- デジタル化された報酬連動型のロイヤリティプログラムにより、一人当たりの血漿収集量を最適化
- データに基づくコミュニケーションで血漿成分献血者それぞれのニーズを満たす

人工知能（AI）や機械学習（ML）の活用 により事業運営を効率化

- 予測 AIのニューラルネットワークの活用により、より正確なニーズの予測が可能に
- シミュレーションおよび数学的モデリングにより、血漿収集センターの労働力を最適化
- デジタルツイン・テクノロジーは、データに基づく意思決定や製造拠点における効率化に貢献

患者さんの治療体験の向上を通じて 価値を提供

- 患者さん自身で健康管理を行うことを可能にするデジタルコンパニオンアプリ
- 集約されたデータおよびそれらによって得られた知見を基にした個別化された治療を体験して頂くことで、治療に対するアドヒアランスが向上

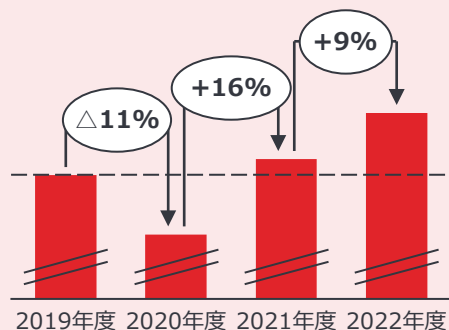
デジタルにおける重要な成功可能要因

人工知能（AI）・機械学習（ML）・自動化・オムニチャネルを通じたアプローチ・高度な分析

事業運営の効率化と変革により、同業他社より少ない生産設備で 高い生産性と売上収益成長を実現



当社の血漿収集量



- 収集量の減少は最も少なく、いち早く回復
- 新センターおよび変革が牽引
- ネットワーク拡大の推進により、短期的な収集量増加の基盤を構築

効率化により、2020年度から2022年度にかけ売上高が約30%成長

サプライチェーンの効率化

免疫グロブリン製剤の
エンド・ツー・エンドでの
リードタイムを27%短縮
(2022年度実績、2019年
度比)
製品の在庫レベルは維持

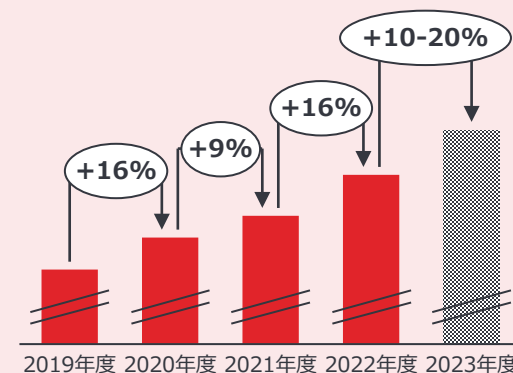
1リットル当たりの血漿 からの免疫グロブリン (IG) 収率

変革と事業運営の効率化
によるIG収率の向上
血漿中のIG含量と交換
効率の両方を改善

より高い付加価値の提供

皮下注用免疫グロブリン
製剤 (SCIG) の成長
による製品ミックスの
改善
平均销售价格 (ASP)
の維持・改善

当社の免疫グロブリン製剤 売上収益成長率¹



- パンデミック期間中も一貫して成長
- 市場を上回る成長
- すべての地域で成長し、米国ではシェアを拡大

パンデミックが終息し、
2023年度上期においてCore営業利益率が改善

¹ 2020年度（対2019年度）および2021年度（対2020年度）の売上収益の対前年比は、実質的な成長率。2022年度（対2021年度）の売上収益の対前年比はCERベースの成長率。2021年度を最終年とし、実質ベースの指標を止めました。実質的な成長とCERベースの成長はいずれも前年度との比較において為替影響を控除するための調整を行う指標ですが、CERベースでは前年度の同期間に適用した為替レートを用いて換算する一方、実質的な成長では当社が選択した単一の計画為替レートを用いて換算しています。実質的な売上収益成長の定義では、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整することとしていますが、本プレゼンテーションにおける報告期間においては血漿分画製剤事業の売上収益成長からこれらの調整に該当する事象はありませんでした。上記の通りこれら二つの指標は等しくなく且つ直接的に対応しておらず、2020年度（対2019年度）および2021年度（対2020年度）の売上収益成長率をCERベースで算出した数値は、実質的な売上収益とは異なる数値となります。2020年度（対2019年度）、2021年度（対2020年度）および2022年度（対2021年度）の免疫グロブリン製剤の財務ベース売上収益成長率は、それぞれ12.1%、15.2%および35.3%でした。CERの定義は以下のリンクをご参照ください：https://assets-dam.takeda.com/image/upload/v1699393405/Global/Investor/Financial-Results/FY2023/Q2/qr2023_q2_p01_jp.pdf。実質的な売上収益の定義は以下のリンクをご参照ください：https://assets-dam.takeda.com/raw/upload/v1662727335/legacy-dotcom/siteassets/jp/home/investors/report/quarterly-announcements/fy2021_q4_p01_jp.pdf。

上期の力強い実績に基づき、PDTビジネスユニットの2023年度通期予想を維持



2023年度上期 売上収益成長率（CERベース）



2023年度通期予想 PDTビジネスユニット売上収益成長率（CERベース）

1桁台後半の成長

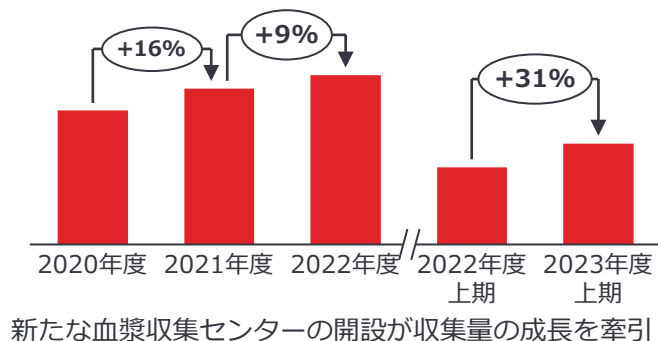
10-20%成長

10-20%成長

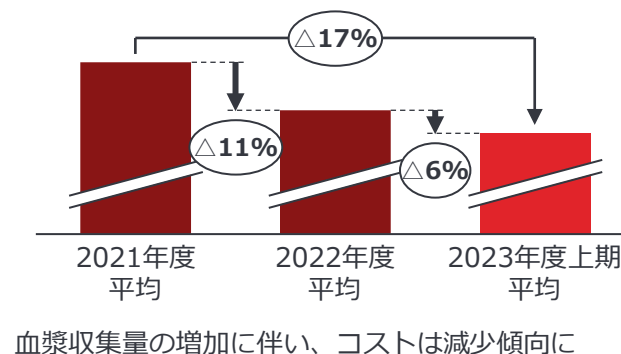
5-15%成長

血漿収集体量 増加率

グローバルの血漿収集体量



血漿成分献血者への報酬の削減（米国）



Core営業利益率の改善

- 血漿収集体量を増加させつつ、1リットル当たりのコストを徹底的に管理
- データおよびデジタルを活用し、血漿成分の収率改善や効率化を推進しつつネットワークを拡大
- 成長を続ける免疫グロブリン製剤市場において、製品ミックスを改善し、製品の付加価値を高めたことによる効果



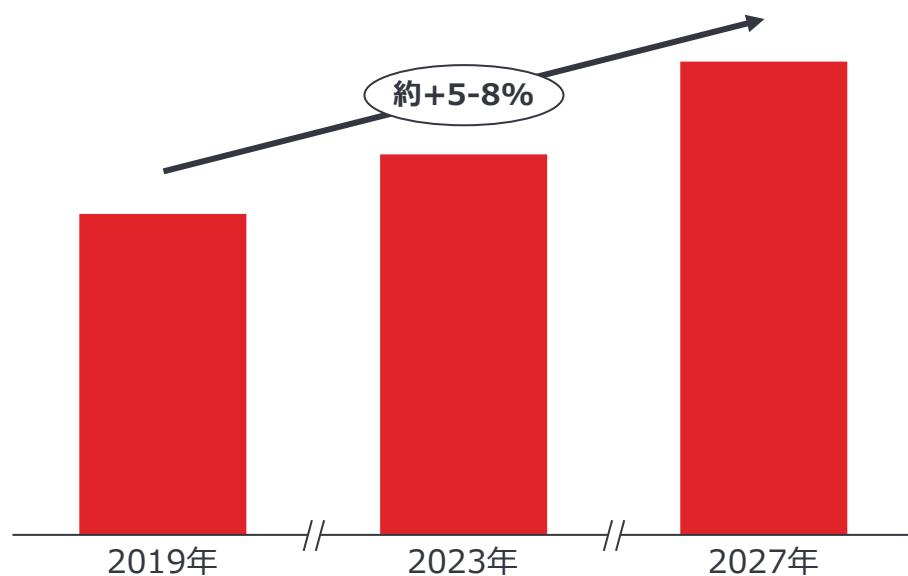
エンド・ツー・エンドのイノベーションを通じ
さらなる持続的な成長に向けて

逆風はあるものの、多くの慢性疾患や希少疾患において患者さんのアンメット・ニーズが存在するため、血漿分画製剤市場は持続的に成長すると想定



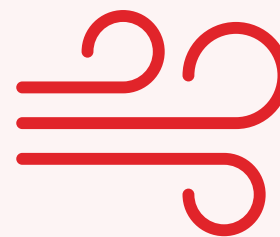
増加する需要

世界の免疫グロブリン製剤市場は年々増加



世界の免疫グロブリン製剤の市場予想（数量ベース）

主な市場動向



- 診断率の向上
- 地理的拡大および治療へのアクセス向上
- 製品の投与体験や利便性の向上に対するニーズ
- デジタル化を通じて実現される包括的な治療体系
- 新たな適応症

- 血漿分画製剤事業の独特なエコシステムに対する理解不足
- 競合環境および革新的な新薬の登場



2023年度から2028年度末までに 製造能力を50%以上拡大させる新たな目標を設定



1 全製造拠点における設備の拡充と実用化の推進

新たな製造能力の拡大目標

50%以上

2023年度 ベースライン
→ 2028年度



レシーヌ（ベルギー）
Ig精製ラインと物流倉庫



ウィーン（オーストリア）
アルブミン充填ライン



ピサ（イタリア）
アルブミン充填ライン



リエティ（イタリア）
血漿コンテナ開梱
（解体）設備



ラウンドレイク（米国）
Flexbumin充填・包装
ライン



コビントン（米国）
継続的に稼働率を向上



ロサンゼルス（米国）
血漿コンテナ開梱
（解体）設備



成田（日本）

2 イノベーションと運営効率化

「Factories of the Future」 - 自動化、データ分析、
人工知能（AI）およびテクノロジー

3 プロセスと業務の効率化

標準化、簡素化、および/またはリーン生産方式

長期的な生産能力拡大によるさらなる可能性



大阪（日本）

日本で計画されている新設工場は、
50%以上という拡大目標に対して
さらなる増分となる

業界標準を再定義し、さらなる効率化を図りながら 包括的なアプローチを取り、血漿収集量を増加させる



採漿体験



- 包括的な顧客体験（CX）フレームワーク
- 個別化／デジタル化された血漿成分献血者の嗜好に基づくエンゲージメント
- 採漿の効率性と安全性を高めるエンド・ツー・エンドのデバイス変革

従業員の 管理と維持



- 労働生産性を向上させるため、労働力管理システムを刷新
- デジタル化された人材獲得システムにより、新規採用に要する時間を短縮
- 現代のユニークな需要に適応した人員配置モデル

近代化された プロセス



- 顧客との接点を自動化するインテリジェント・ドナー・ケア・プラットフォーム
- 予測モデリングの活用で血漿成分献血者の需要を個別化および最適化
- 献血行動の変動に応じ各センターの稼働率を最適化

データ、デジタル、人工知能（AI）による変革



供給

持続的な血漿分画製剤の供給量増加および市場シェア拡大に必要な血漿収集量を確保



コスト

デジタルを駆使した変革が効率化を促進し、全体的な利益率改善に貢献



成長

新たな血漿収集センターの迅速な立ち上げと血漿収集に関連するすべての要因の最適化により、力強い成長を維持

当社の血漿分画製剤ポートフォリオ戦略は、患者さんのアンメット・ニーズに応えるような革新性を通じ、ダイナミックな市場において持続的かつ長期的な成長をもたらす



より多くの患者さんへの貢献



既存の適応症およびプレゼンスを有する地域で
より多くの患者さんに製品をお届けしつつ
疾患と治療法に対する認知度のさらなる向上を
目指す

HYQVIA CIDP の適応症追加

(米国、欧州、カナダ、成長新興国市場)

GAMMAGARD CIDP の適応症追加

(米国)

日本への拡大

ファースト・リットル製品の拡大

患者さんの治療体験を再定義



製剤の改良と患者さんを中心に据えた
統合的な治療エコシステムの提供により、
当社製品による治療体験を継続的に改善

TAK-881

(20%促進型皮下注用免疫グロブリン製剤 (fSCIG))

デバイスおよびテクノロジーによる ソリューション

デジタルを駆使したサポートアプリ

血漿分画製剤の可能性を引き出す



患者さんの転帰および関係者の負担を改善する
血漿分画製剤での新たな治療法や技術により
アンメット・ニーズに対応

ポートフォリオ全体にわたる 複数の前臨床段階の候補物質

血漿分画製剤の新たな製造技術

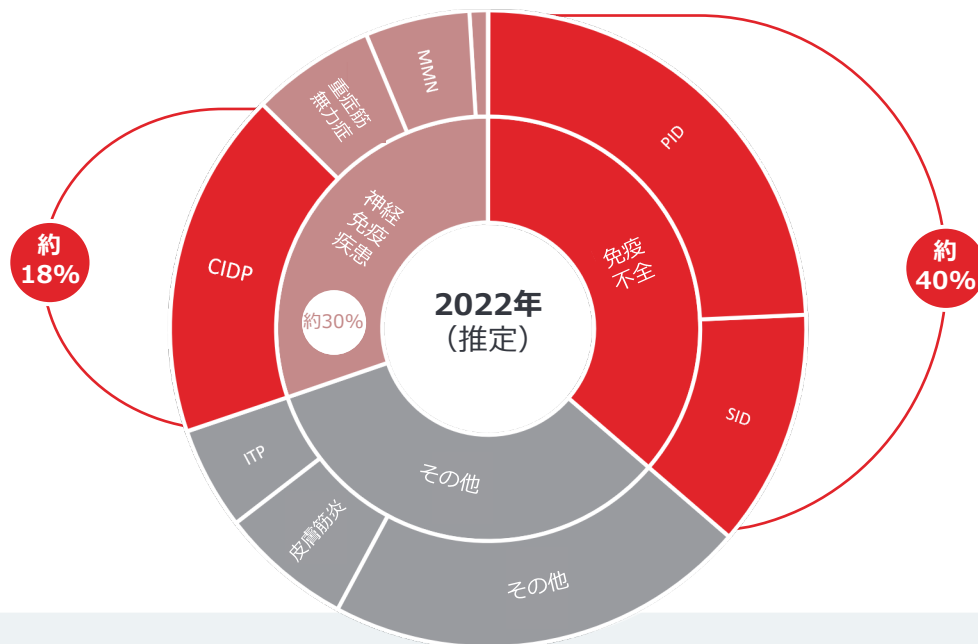
TAK-411 (高シアル化免疫グロブリン)

今後5年間で、パイプラインに3つの候補物質を追加する予定
既存の製品およびパイプラインからグローバルで75以上の上市*を実現する計画

神経免疫疾患を対象とした新たな治療薬が参入したものの、 免疫グロブリン（IG）製剤の長期的な成長の可能性は依然として高い



免疫グロブリン製剤使用内訳（2022年の推定、数量ベース、グローバル）



抗FcRn製剤の影響は、IG市場全体の
10%未満にとどまると想定

原発性免疫不全症候群（PID）および続発性
免疫不全症候群（SID）の適応症へ影響なし

MMN=多発性運動ニューロパチー、ITP=特発性血小板減少性紫斑病

IG製剤は依然として慢性炎症性脱髄性多発神経炎（CIDP）における標準治療

CIDPは、明確なマーカーがない不均一な疾患である¹

IG療法は幅広い抗炎症作用と免疫調節作用を有する²

- 増加する広範な亜型のCIDP患者さんに対し、有効性が証明されている³
- 70年以上にわたって確立された安全性プロファイル⁴

差別化されたIG製剤ポートフォリオがCIDP患者さんの治療に貢献し続ける

- **短期**：維持療法としてHyQviaならではの利点が貢献
- **長期**：イノベーションにより、うつり変わる患者さんのニーズへ対応
 - **デバイス/アプリ**：治療体験のさらなる向上
 - **TAK-881**：投与量および治療負担の軽減
 - **TAK-411**：さらなる負担軽減が期待される高い効果と供給能力向上への貢献

PIDとSID市場の拡大が革新的な新薬参入による影響を相殺すると予想

- IG製剤市場において**最速で成長している**セグメント
- 2019年から2027年にかけて、全世界で**約7%**（数量ベース）の成長が見込まれる
- 日本やその他の地域における人口比あたりのIG使用量は、米国と比べ非常に低い

市場データの出典：Market Research Bureau (MRB) Report 2021、社内データおよび推定

¹Chen Y, Tang X. Chronic Inflammatory Demyelinating Polyradiculoneuropathy in Association With Concomitant Diseases: Identification and Management. Front Immunol. 2022 Jul 4;13:890142. doi: 10.3389/fimmu.2022.890142. PMID: 35860284; PMCID: PMC9289227; ²Fernández-Cruz et al. Mechanisms of action of immune globulin. Clin Exp Immunol. 2009 Sep;157 Suppl 1(Suppl 1):1-2. doi: 10.1111/j.1365-2249.2009.03955.x. Erratum in: Clin Exp Immunol. 2009 Sep;157(3):446. Ramón, S S [corrected to Sánchez Ramón, SJ. PMID: 19630862; PMCID: PMC2715434.; ³Gaebel et al. Intravenous immunoglobulin for the treatment of chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy: a systematic review and meta-analysis. Open Med. 2010;4(3):e154-66. Epub 2010 Aug 24. PMID: 21687335; PMCID: PMC3090105.; ⁴Hooper JA. Intravenous immunoglobulins: evolution of commercial IVIG preparations. Immunol Allergy Clin North Am. 2008 Nov;28(4):765-78, viii. doi: 10.1016/j.iac.2008.06.002. PMID: 18940573; PMCID: PMC7135658.

これまでの持続的な成功に誇りを持つとともに、 当社の自信や継続的な価値創造へのコミットメントを裏付ける投資を計画



力強く持続的なトップラインの成長に貢献する要因

- 患者さんの高いアンメット・ニーズへの対応
- より洗練された血漿分画製剤ポートフォリオ戦略
- 製造設備の拡充
- 先行投資とデータ、デジタル、テクノロジーを駆使した変革の推進

50%以上

2028年度末までに製造能力を拡大
さらに日本で新製造施設の建設計画



利益率の改善に貢献する要因

- 血漿成分献血者への報酬設定の調節
- 血漿成分の収率改善
- 製造プロセスにおける時間短縮、自動化、データ分析による効率化
- 製品ミックスの改善と製品の付加価値を高めることによる効果



対前年比の利益率改善



エンド・ツー・エンドの イノベーションを通じ 持続的な成長へ

2023年12月6日（日本時間）

2023年12月5日（米国東部時間）



Better Health, Brighter Future

略語の用語集（アルファベット順）



A1ATD	α1アンチトリプシン欠損症
BU	ビジネスユニット
CIDP	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎
CPL	1リットル当たりのコスト
DD&T	データ、デジタル、テクノロジー
DM	皮膚筋炎
EMA	欧州医薬品庁
FcRn	胎児性Fc受容体
FDA	米国食品医薬品局
fSCIG	促進型皮下注用免疫グロブリン
FSI	最初の被験者登録
IG	免疫グロブリン
IgG	免疫グロブリンG
IgA	免疫グロブリンA
IIM	特発性炎症性筋障害

ITP	特発性血小板減少性紫斑病
IVIG	静注用免疫グロブリン
MG	重症筋無力症
MMN	多巣性運動ニューロパチー
MOA	作用機序
PDT	血漿分画製剤
PID	原発性免疫不全症候群
POC	プルーフ・オブ・コンセプト（概念実証）
RAID	希少自己免疫疾患
SCIG	皮下注用免疫グロブリン
SCPCD	重症先天性プロテインC欠乏症
SID	続発性免疫不全症候群